

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891400081
法人名	株式会社 元禄
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームひねもす
所在地	西予市宇和町卯之町5丁目1-4
自己評価作成日	平成26年9月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年9月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

居心地のいい場所で過ごしていただけるよう 日々を有意義に過ごして頂けるように努めています。
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

日頃、敷地内を散歩したり、管理者や職員が立てた外出計画に沿って支援されている。宇和運動公園に桜の花見に出かけたり、1月には宇和町の三島神社に初詣に行かれた。 月2回、調理レクとして事業所で昼食を作って職員も一緒に食べている。当日は、利用者と一緒にお米を研ぎ、豆ごはんを炊く等して、季節感のある食事になるよう取り組まれている。又、皆でカレーを作った時には、「やっぱり自分でつくるとうまい」とお替わりされた方もあったようだ。 併設する高齢者宿泊施設から入居となるケースがほとんどであり、デイサービスの雰囲気の中では落ち着かない方でも、入居後には落ち着いて過ごされているケースが多いようだ。 思い出に残るような誕生会を催せるように、食事やレクリエーション等の工夫に努めておられる。
--

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 認知症対応型共同生活介護

(ユニット名) グループホームひねもす

記入者(管理者)

氏名 山下 淳子

評価完了日

26年 9月 3日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 個々の利用者に合った介護の提供という観点でスタッフ一同、統一した介護につながるよう努めています。またスタッフそれぞれが、理念の実践につながるよう、日々の業務を行っている。	
			(外部評価) 法人設立時、「かえってくる笑顔 あたらしい笑顔 みんなでわけあう笑顔 そんな一日家族でありたい」という理念を法人代表者が作っており、事業所にも掲げておられる。事業所開設時には、職員で話し合い、「利用者様の意向・意思を尊重した介護を行います」「価値観や生活習慣に基づいたサービスを支援します」「地域との連携に努めます」と職員理念を作られた。法人代表者は、デイサービスや高齢者宿泊施設の運営を経て、グループホームの開設を機に、「オープンな事業所」を目指したいと話しておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の方も含め、来訪者には気軽にホームの見学をして、いただけるような環境作りに努めている。 近隣の方との、日常的な交流には至っていない。	
			(外部評価) 地域に併設デイサービスや高齢者宿泊施設の認知度は広がっているものの、グループホーム開設については広報していないため、事業所を知る人は限られているようだ。現在は、利用者から買い物希望があればデイサービスの車で出かけておられるが、今後は、グループホーム名の入った専用車を用意する計画があり、車で出かけることにより事業所の存在を知ってもらいたいと考えておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人との交流がない為、まだ出来ていない	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2か月に1回のペースで開催している。各月ごとの行事や勉強会・等の報告をし、構成員の方々から色々と意見を述べていただいている。 会議の記録は、介護の向上に反映できるよう、玄関入り口に掲示している。</p> <p>(外部評価) 会議は、ご家族の日程の都合に合わせて開催されており、ご家族からの提案もあり、現在は、利用者とペアになって順番に参加されている。会議時には、管理者からレクリエーションや誕生会等の行事報告を行い、参加者から意見をうかがっており、約30分間の会議となっている。次回からは、併設デイサービスOBの方が地域代表として参加することになっている。法人代表者は、会議を通じて、「いろいろな方から取り組みのアイデアをうかがいたい」と話しておられた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 担当者の方には、運営推進会議に出席していただき、様々な相談をし、助言をしていただいている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に市職員が出席しており、会議への地域の方の参加や避難訓練の実施等、事業所が取り組むべき事柄について教えてくれている。介護相談員を受け入れている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関の施錠も含め、身体拘束はしていない。 見守り・付き添いという形を徹底することで、利用者の自由な活動を極力確保できるよう努めている。 声かけの仕方等不十分な職員も見受けられるが、勉強会等を通じて浸透するよう心掛けてゆく。</p> <p>(外部評価) 玄関は、外からは入れるようになっているが、中からは、高い位置に設置しているボタンを職員が押して開けるようになっている。事業所では、利用者「自由に動いてもらって、疲れたら眠る」という考えのもと支援されており、職員は利用者の動きを止めるようなことはしないよう心がけておられる。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  虐待に関する資料の掲示をし、勉強会でも取り上げて行なっている。言葉がけについては、不十分な職員もおり、今後はお互いが注意し合えるように気を付けたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  今後研修に参加できる形をとっていき、職員が閲覧できるよう機会を設けて勉強会を行ないたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時に管理者が、契約内容や重要項目について、細かい説明を行ない、家族のかたに充分理解していただけるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  面会時、電話連絡時等に家族の意見を聞くようにしている。要望・意見について職員相互の連絡を取り、管理者への報告も行なっている。また、意見箱を設置し、家族や来訪者が意見を述べやすい体制を取っている。	
			(外部評価)  毎月の「ひねもす便り」は、ご家族等に向けて発行しており、レクリエーションの様子や次月の予定等を載せておられる。又、最後に、「ご相談・ご意見等がありましたら遠慮なく申しつけください」と記されている。ご家族は来訪時、居室で過ごされることが多く、各居室に椅子が用意されている。ご家族と職員とは立ち話にとどまっていたが、現在は、玄関横のスペースを相談室にして、ゆっくりお話しができるようにされている。利用者個々の誕生日には手作りケーキでお祝いしており、ご家族にも案内されるが、参加にはつながっていないようだ。事業所では、12月にクリスマス会と併せて家族会を行いたいと考えておられる。ご家族からは、職員の名前に顔写真があった方が職員の方が良くわかると提案があった。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	さらに、職員が一丸となってケアに取り組めるように、職員のチームワークを育て、個々にスキルアップできるような取り組みをすすめていかれてほしい。職員は、他グループホームの見学等して他の取り組み等も知りたいと話しておられた。又、管理者は、外部研修の受講も積極的に取り組んでいきたいと話しておられた。
			(外部評価)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	代表者もフロアの状況を見る機会が多く、職員の意見等も良く反映できる形ができています。
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	各職員の就業状況や業務内容は把握している。今後各研修への参加が積極的に行える環境にして行きたい。
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	他の施設・事業所の同業者との交流はまだできていない
			(外部評価)	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	事前の調査や施設見学等の機会に、聴き取りを行なっている。また、入所当初には良く本人と話す機会を設け、希望や不安点等を聴き取るようにしている。
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	本人同様家族の方からも良く話を聞いている。管理者は契約時等に、細かい意見や、利用者についての情報収集に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	まず入所当初に必要な介護計画を立案し、概ね二週間の期間で本人に合ったサービス内容を見極めるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	年長者であることを念頭に、自然に尊重した接し方ができる心構えを持つ、相手の立場に立った行動ができるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	利用者本人の事柄、施設運営に関すること等、家族の意見は積極的に参考にするよう心掛けている。 安心して外出・外泊ができるよう協力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	馴染みの人(友人・知人・親戚)の方との交流が持てるよう支援している。定期的に買い物行事・ドライブ等を行ない、馴染の場所を目にすることが出来るようにしている。	
			(外部評価)		
				毎月、事業所からご家族へ送付する手紙には、利用者からの言葉を職員が代筆して添えておられる。季節ごとに、お花がきれいに咲く場所に出かけられるよう支援されている。思い出に残るような誕生会を催せるように、食事やレクリエーション等の工夫に努めておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日、集団での体操やレクリエーション等を行ない、利用者同士が関わり合えるよう援助している。また、職員が間に入り、友好的な関係が保てるよう手助けしているし座席の配置にも配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了にも、家族に状況等を聞き相談等に乗っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の行動や会話の中から本人の希望をくみ取り活かしているが、入浴時間や排泄パターン等、まだまだ介護者本位の場面がみられる。利用者本位は介護の基本であるので、今後もミーティングを重ね徹底していきたい。	
			(外部評価) 利用者個々の担当職員が、センター方式の心身の情報のアセスメント様式を用いて情報収集している途中である。	管理者は、利用者のご自宅で暮らしていたころの様子等をご家族からお聞きしたいと考えておられる。利用者の以前の暮らしぶりや現在の暮らしの希望、今後の暮らし方についても情報を集めて、その人らしい暮らしをサポートできるように取り組まれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人の記憶に強く残っているものは、日頃の会話の中から拾い、出来る限り職員間で共有できるようカンファレンス等で話し合うようにしている、入所当初時の本人・家族からの聴き取りを行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 理念に基づき、利用者個々の状態の把握に努めている。色々なことをやってみていただいて、それぞれに意外な能力が発見できる場合がある。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月、ケアカンファレンスにおいて各利用者のモニタリングを行ない、介護計画に反映している。評価結果は、それぞれ家族に通知し、意見を求めている。</p> <p>(外部評価) 併設する高齢者宿泊施設から入居となるケースがほとんどであり、デイサービスの雰囲気の中では落ち着かない方でも、入居後には落ち着いて過ごされているケースが多いようだ。毎月のカンファレンス時には職員でケアについて話し合い、ご家族には来訪時等にケアへの要望や意向をお聞きして反映できるよう努めておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別には、介護記録、経過観察記録、業務日誌等があり介護計画に沿って毎日の状態を記録している。また、申し送りノート等の活用も行なっている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員による買い物の代行、移動パン屋での購入、一般デイで行われるボランティア団体によるレクリエーション等がある。今後も様々なニーズに対応していきたい。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 具体計画には至っていないが、今後、プランタンに野菜や草花等を栽培したり、地域の人達との交流を行えるように環境を整えていければと思っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医による月1回の往診があり、利用者の健康管理に努めている。必要時には、家族に協力していただいて他科受診をしている。	
			(外部評価) 毎月1回、主治医の往診があり、事業所便りの予定欄にも記している。併設デイサービスに所属する看護師資格を有する職員に、利用者の健康状態について相談することもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医とは、日頃から、連絡を密に行い、入院時にも経過報告等こまめにし情報交換をしている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 往診、日頃から連絡を密にできる体制をとっており、入院時にも経過報告等こまめに行い情報交換をしている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 管理者から、看取りはしていない事を伝え、家族・本人の要望があれば、経口摂取が困難になり医療が必要になるまでグループホームでの支援を行い、医療面が必要になったら病院に搬送を行う事を説明している。(現時点一名いらいやいます。)	
			(外部評価) 現在、事業所には90歳を超える利用者が複数おられ、この一年では、100歳を超える利用者の終末期を支援された事例がある。呼吸がしんどそうになったため、救急搬送となったが、支援の様子等を見て「私もここで最後まで見てほしい」と言うような利用者もあつたようだ。事業所では今後、医療連携体制を整備して利用者の希望等に応じていきたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 現時点では未受講者もいる。 急変時対応の経験者は少なく、今後は、勉強会等にて実践力を養う。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は1回行なっている。 今後総合避難訓練を予定している。 地域との協力体制をしっかりとっていくことが、今後の課題である。	
			(外部評価) 4月には事業所独自で夜間、職員一人体制時の台所からの火災を想定した避難訓練を実施された。又、10月には併設施設合同の訓練を行う予定がある。その際には、避難場所や職員の役割等も決めて行うことを計画されている。今後は、地域とのつながりつくりの取り組みをすすめながら、協力体制の整備にも努めていかれてほしい。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の人格の尊重を基本において介護に臨んでいるが、声の強弱や微妙なニュアンス等、言葉がけの点においてまだ不十分などところがあり、全職員に徹底していきたい。	
			(外部評価) 先生だった利用者は、他利用者の読み書き等を見てくれている。日中、居間ではゲーム等を行えるよう取り組まれているが、職員は利用者に強要することなく利用者の反応等を見ながら支援されている。男性職員は、女性利用者の入浴介助時には、頭と背中だけ洗って、他はご自分で洗えるように支援されている。又、利用者によっては、「女の人にしてや」と希望があり、対応されている。職員は利用者を「ばあちゃん」「じいちゃん」「おばちゃん」等と呼ぶような場面も見られ、又、対応についても工夫や配慮が必要ではないかと感じる点もあった。	現在、利用者から希望を言うようなことはあまりないようで、職員が利用者の様子等も見ながら決めておられるが、利用者主体の生活支援に向けて利用者個々が力量に応じて、選んだり決めたりできるような場面を増やしていかれてはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人のちょっとしたつぶやき等から察して、おやつ・飲み物や、誕生会のプレゼント・レクリエーションの内容等も、よく希望を聞くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日課的な意味では職員主体になりがちな部分もあるが、口腔ケアのタイミング、散歩や昼寝の時間等、利用者の希望に沿って援助できるよう努力している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時、入浴時等に、可能な利用者については本人に服を選んでいただいている。選べない方については、季節感、本人らしさが出るように職員が工夫している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生日会等の行事の際には、本人から希望をとり、好みに合わせた食事を提供している。 職員と一緒に食事することで、コミュニケーションをとっている。片づけも一緒に行なっている。 (外部評価) 法人の厨房でつくった食事が配膳されて事業所に届くようになっている。仕切りのあるプレートにおかずが盛ってあり、ご飯はやわらかく炊いてあった。利用者の状態によっては食材を小さく刻んでいたり、軽い器に盛ってあった。目の不自由な利用者には、職員がメニューを伝えておられた。職員は、それぞれが用意したお弁当を利用者と同じ席で食べておられた。月2回、調理レクとして事業所で昼食を作って職員も一緒に食べている。当日は、利用者と一緒にお米を研ぎ、豆ごはんを炊く等して、季節感のある食事になるよう取り組まれている。又、皆でカレーを作った時には、「やっぱり自分でつくるとうまい」とお替わりされた方もあったようだ。	事業所では、ゆくゆく事業所で利用者と一緒に食事を手作りできるように取り組みたいと考えておられる。今後、利用者個々の食事の好みや習慣等も採り入れながら、利用者主体の食事支援に工夫されてほしい。現状を踏まえて、たとえば、ご飯やお汁は事業所で利用者と手作りしたり、サラダのドレッシングや調味料を選ぶような場面作り等、楽しみながら食事ができるような支援を工夫されてはどうだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食時の食事量のチェック、10時・おやつ時を合わせたトータル水分摂取量のチェック・記録をし観察をしている。お茶をあまり飲まれない習慣の方については、その他の飲み物を提供したりしている。糖分を控えるように注意も払っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず全員に口腔ケアの声かけを行なっている。介助の必要な方は介助し、自分でできる方についても、確認をしている。義歯の方は、週2回のポリドント消毒を行なっている。歯ブラシやコップの消毒も毎回している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人個人に合わせた声かけ・誘導・介助を行ない、排泄の失敗を減らすよう援助している,状態に合わせて夜間ポータブルトイレ2名使用してる	
			(外部評価) ご自分でトイレに行く方や職員が声をかけて支援する場合もある。夜間、歩行状態が不安定な方もあり、ポータブルトイレを使用する方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 業務日誌に記入し、便秘の方が分かるようにしている。慢性気味の方については、医師と相談の上、内服でのコントロールを行なっている。十分な水分摂取を心掛け、また適度な運動ができるよう援助している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日は決めず、毎日入浴できる体制で行なっている見守り程度で入浴可能な方については、夜間入浴も検討中。入浴中は本人のペースに合わせてゆっくりと入っていただいている。	
			(外部評価) 一般家庭のような浴槽で職員が介助して入浴できるよう支援されている。夕食が済んでからの入浴を希望する方にも応じておられる。入居前に使用していた併設高齢者宿泊施設にある、特殊浴槽を継続して使用している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 殆どの方は日中はフロアで過ごされているが、昼食後等自室で休みたい場合には、ご自由に休憩時間をとっている。就寝時、介助の必要な方については、睡眠時間等を考慮して、適切な時間に居室へ誘導し、休んでいただくようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	薬の作用や副作用等、個人毎の一覧表にして、各職員が理解しやすいようにしている。症状の変化等みられた場合には、主治医に連絡し、内服の検討等を相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	個人の能力を活かせるような役割の提供をしている。レクリエーションにおいても、塗り絵・貼り絵・カラオケ・パズル・輪投げ・ボール等、それぞれが個性を發揮できるよう様々な種類のものを提供している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	可能な限りは職員が付き添いして屋外を歩き、新鮮な空気が味わえるよう支援している。買い物やドライブの形で、最低月1回は外出できるようにしている。	
			(外部評価)		敷地内を散歩したり、管理者や職員が立てた外出計画に沿って支援されている。宇和運動公園に桜の花見に出かけたり、1月には宇和町の三島神社に初詣に行かれた。今後は、ご家族も一緒に外出できるような支援に取り組みたいと考えておられた。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	現在、お金を支払える方はいらしゃらない、買い物に行っても職員管理で支払っている。日常的には、施設内でのお金の所持は行っていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	家族から電話があった場合には、取り次ぎをして話をさせていただくようにしている。電話機は、利用者が話のしやすい位置に設置している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) フロアは常に清潔感が保てるよう、清掃・整頓には気を配っている。食べこぼし等の汚れは速やかに取り除くよう心掛けている。エアコンには、効きすぎて利用者に不快感を与えたり体調不良を起こしたりしないように注意を払っている。時折季節の花などを飾ったりしてます。</p> <p>(外部評価) 事業所は高台に立地している。台所の窓からは中庭が見えるが、日差しが入る時間はブラインドを下げていた。居間の高い位置に大型のテレビが設置されており、日中は点けている。昼食前には皆で歌を歌っておられ、又、ボードゲームやパズルをする利用者の様子もよく見られた。居室前の廊下のスペースには、高い位置に小さなテレビが設置されており、ソファと折り畳みのテーブルが用意されており、就寝前にゆっくり過ごすスペースになっている。居間と同じ空間にある台所で、おやつ作りをされており、調査訪問時には、レンジを使ってドーナツを手作りして、おやつを楽しんでいた。利用者によっては、床をモップがけをしてくれる方もいる。</p>	<p>利用者は日中、居間で過ごす時間が長いこともあり、居間の居心地のよさについては、今後も点検を重ね改善に取り組んでほしい。利用者の暮らしの場として、しつらえに工夫できることはないだろうか。季節感や生活感等も感じながら暮らし続けられるような環境整備に取り組まれてほしい。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 集団での体操やレクリエーション時以外の時間は、それぞれが自席で過ごしたり、テレビを観たり、付き添いして散歩をしたり、と思いいご自由に過ごせるように、見守り支援を行っている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 持ち物の制限はしておらず、写真や電気毛布等、身のまわりの物を使っておられる。安心して就寝されるように努めている。</p> <p>(外部評価) 目の不自由な利用者には、安全に歩行できるように居間のご自分の席から近いところの居室を用意され、扉を開放されていた。ものの配置を替えず、危険なものがないように気を付けておられた。ご家族来訪時に一緒に撮った写真を飾っていたり、お誕生日のお祝いの飾りを飾っている方もあった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 廊下には手摺りがあり、杖歩行者や手引きが必要な方等が安全に歩行することができるように、また歩行の練習にもなるように活用している。</p>	